

- 対象地域
広島県山県郡北広島町
(西中国山地国定公園)
- 設立日: H16.11.7
- 構成員数: 32人
- 全体構想作成日: H18.3.31
- 実施計画作成日: H18.10.30
(H31.3現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

八幡湿原自然再生協議会

再生
目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

【事務局】

730-8511
広島市中区基町10-52
広島県自然環境課
野生生物グループ内
電話: 082-513-2933



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

活動報告

自然再生事業地(霧ヶ谷湿原)でのヒメシジミの生息状況

【報告者】 石谷 正宇

広島県内でヒメシジミ(チョウ目シジミチョウ科)の生息個体数が比較的多いと考えられる霧ヶ谷湿原の同個体群に衰退の兆候があると考えられる。自然再生事業開始以前の2004年に捕獲放飼再捕獲法の一般的な方法であるJolly-Seber法で初めて同個体群の個体数を推定した結果、1,700~2,200個体であると推定された(図-1)。

さらに2010年には1,100~1,400個体と推定され、個体数のオーダーでは2004年と同オーダーであったが、上手新一が行った2016年の観察情報では、推定個体数で数百個体となっている。これらのことから個体群の衰退が徐々に露わになってきたと言えるであろう。

数百個体という数字は一見すると、オーダー的にはそれほど危機感が感じられない数字に思えるが、昆虫類というのは一般的に産卵数が数百個であることから、その死亡率を考えるとこのエリアでの実質的なヒメシジミの個体数は数十個体に過ぎないのではないかと推定される。

この数は生態学的に言えば、ほとんど絶滅状態にあると言っても差し支えないであろう。本種は、極東から欧州にかけて分布する広域分布種であるが、日本固有種としての亜種は、北海道では山地だけでなく平地にも分布し、東北から中部地方では山地性となり、山間の草地や路傍に生息する。近畿地方からは未知であり、中国地方では山間の湿地に産地が点在する。特筆すべきは九州亜種個体群が大分県で既に消滅した結果、「日本のレッドデータ検索システム」による広島県を含む中国地方が図-2の通り、極めて絶滅の危険に晒されていると言わざるをえない。

この霧ヶ谷湿原でのヒメシジミの直接的な減少は、ヒメシジミ幼虫の食草であるヨモギを含む雑草が、同湿原内の河川のコンクリート製堰堤を破碎した際に、工事に必要であった重機の乗り入れによってはぎ取られたことによることが大きいと考えられる。

同雑草地の状況は、図-3の通り自然環境再生事業以降10年を経過しようとする今でもほとんど回復が認められない。ここは霧ヶ谷湿原へのアクセスの入口となっている場所であり、案内版が設置されていることもあって、人々の立ち入りによる踏圧の大きい場所であるため、植生の回復が早々には望めないのではないかと考えられる。今後もこの雑草地の状況とヒメシジミ個体群の回復の状況を注視していく必要がある。



図-1 個体数推定のためのヒメシジミのマーキング個体

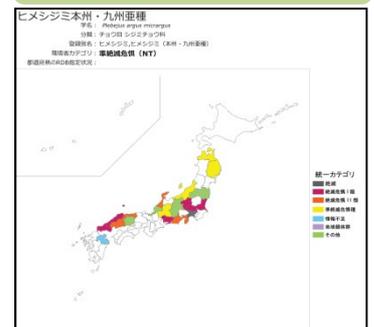


図-2 ヒメシジミの各都道府県における絶滅危険度



図-3 雑草地の剥ぎ取りによる裸地から回復していない状況